

寺本沙也加¹：沖縄県久米島に漂着した東日本大震災による津波漂流物

Sayaka TERAMOTO¹ : Tsunami debris by the Great East Japan Earthquake stranded on the coast of Kumejima Island, Okinawa.

はじめに

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により引き起こされた東日本大震災では、津波により大量の災害廃棄物が海洋へ流失した。岩手県、宮城県、福島県から流失した災害廃棄物の総量は約500万トンで、そのうち3割程度が漂流していると推定されている（環境省ホームページ）。沖縄県内では、2012年7月に伊計島沖で宮城県女川町の漁船が、2012年12月に西表島で宮城県南三陸町の郵便ポストが、津波漂流物として確認されている（沖縄県 2013）。今回、沖縄本島の西方約100kmに位置する久米島において、津波漂流物やその可能性があるトロ箱と水産用かごの漂着を確認したので報告する。

漂着記録

(1) 宮城県気仙沼魚市場のトロ箱 (図1-A)

漂着状況：2018年9月29日、久米島の島尻の浜にて漂着が確認された。漂着確認日は、平成30年台風第24号が久米島を通過した直後で海上は大しけであった。トロ箱は二箇所へ亀裂が入っていたが、ほぼ完全な状態を保っていた。付着物等は確認されなかった。

流失地：トロ箱には「気仙沼魚市場」の文字と、宮城県気仙沼市の気仙沼漁業協同組合のシンボルマークが書かれていた。気仙沼漁業協同組合に問い合わせたところ、同組合が所有していたトロ箱であり、津波で流失したものであることが確認された (図2)。

(2) 北海道東戸井のトロ箱 (図1-B)

漂着状況：2019年12月21日、久米島の島尻の浜にて漂着が確認された。トロ箱は一箇所へ亀裂が入っていたが、ほぼ完全な状態を保っていた。付着物等は確認されなかった。

流失地：トロ箱には「東戸井漁組」の文字が書かれていた。北海道函館市の戸井漁業協同組合東戸井支所に問い合わせたところ、同支所が所有していたトロ箱であり、津波で流失したものであることが確認された (図2)。

(3) 福島県相馬双葉の水産用かご (図1-C)

漂着状況：2021年4月25日、久米島の宇根地区の海岸にて漂着が確認された。かごは大破しており、一部が残っているのみであった。付着物等は確認されなかった。

流失地：かごには「中立谷」の文字が書かれていた。立谷という地名が福島県相馬市にあることから相馬双葉漁業協同組合に問い合わせたところ、同組合の組合長である立谷 (たちや) 寛治氏が所有する底曳き船で水揚げした魚を選別するかごであり、津波で流失したものであることが確認された (図2)。かごに書かれていた「中」は「まるなかや」と読み、立谷氏の屋号で

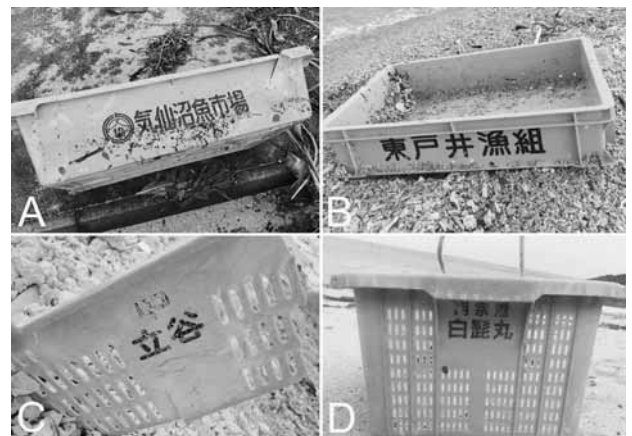


図1 津波漂流物のトロ箱と水産用かご

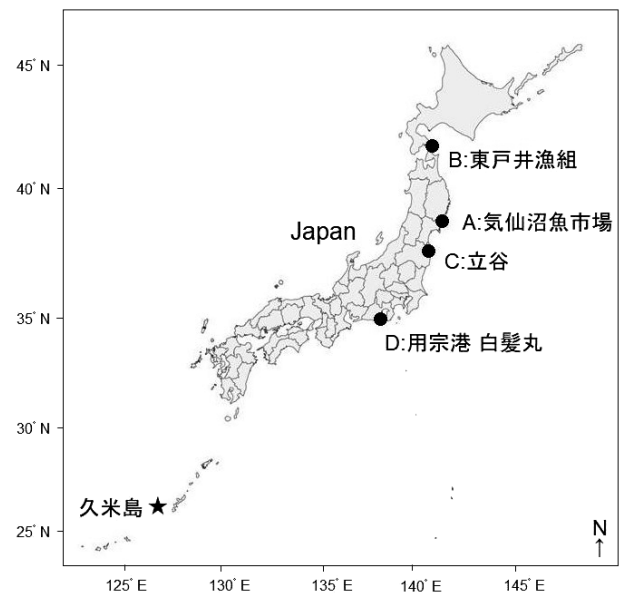


図2 津波漂流物の流失元 (●) と久米島 (★) の位置

あったことから特定に至った。

(4) 静岡県用宗港の水産用かご (図1-D)

漂着状況: 2021年7月26日, 久米島の島尻の浜にて漂着が確認された。漂着確認日は, 令和3年台風第6号が久米島を通過した直後で海上はしけていた。かごは壊れ, 三分の一程が残っていた。付着物等は確認されなかった。

流失地: かごには「用宗港 白髭丸」の文字が書かれていた。静岡県静岡市の清水漁業協同組合用宗支所に問い合わせたところ, 同支所に所属する白髭丸が所有する水産用かごであることが確認された(図2)。かごは, 津波で流失した可能性もあるが, 激甚災害に指定されている令和元年東日本台風(令和元年台風第19号)でも流失しているため, 津波漂流物かどうかは不明であると同支所から回答を得た。

考察

沖縄県には, 津波から10年が経つ現在でも津波漂流物の可能性があるものが漂着している。例えば, 今回見つかったものと同様の宮城県気仙沼魚市場が流失元と考えられる津波漂流物は, 沖縄県今帰仁村(琉球新報 2021年4月1日), 金武町(琉球新報 2020年10月16日), 波照間島(琉球新報 2021年3月11日)などでも見つかり, 県内で複数の漂着が確認されている。これらの津波漂流物の詳細な調査や記録は2013年までは行われていたものの(沖縄県 2013), それ以降は行われていない。2013年以降は地方新聞等に津波漂流物の漂着が取り上げられることも多く, 県内に継続的に漂着している可能性が考えられる。

このような津波漂流物は, 遠距離を長期間漂流するため, 劣化し破損することでマイクロプラスチック化したり, 着生した外来種の拡散・輸送による生態系への影響が考えられる。また, 家庭ごみなどの一般的な漂流物と比較して, 多種多様なものがまとまって大量に流失する等特性が異なる。今後も漂着動向を長期継続的にモニタリングし, 津波漂流物の漂着地への影響を評価していく必要があると考えられる。

謝辞: 気仙沼漁業協同組合, 戸井漁業協同組合東戸井支所, 相馬双葉漁業協同組合, 清水漁業協同組合用宗支所の皆様には, 流失地推定に関して情報提供を頂いた。ここに記して感謝の意を表すとともに, 被災地の復興を切に願う。

引用文献

環境省ホームページ. 2012. 東日本大震災により流失した災害廃棄物の総量推計結果の公表について。

<https://www.env.go.jp/press/14948.html>. (2021年8月29日閲覧)

沖縄県. 2013. 東日本大震災による震災漂流物の沖縄県内への影響. pp24. 沖縄県環境生活部環境整備課, 沖縄. 沖縄の海岸に気仙沼のたらい 震災で漂着か 住民驚き「すごい確率」 金武町屋嘉. 琉球新報. 2020年10月16日.

<https://ryukyushimpo.jp/news/entry-1209032.html>. (2021年8月29日閲覧)

10年かけて気仙沼から沖縄の海岸に漂着 10歳の小学生が発見. 琉球新報. 2021年4月1日.

<https://ryukyushimpo.jp/news/entry-1297060.html>. (2021年8月29日閲覧)

「気仙沼魚市場」の漁業用かごが漂着 震災当時のものか 波照間島の浜で中学生が発見. 琉球新報. 2021年3月11日.

<https://ryukyushimpo.jp/news/entry-1284729.html>. (2021年8月29日閲覧)

(Received Oct. 5, 2021; accepted Aug. 31, 2021)

¹ 〒901-3104 沖縄県久米島町真謝500-1 沖縄県海洋深層水研究所

Okinawa Prefectural Deep Sea Water Research Center, 500-1 Maja, Kumejima-cho, Okinawa, 901-3104 Japan